

## 知っておきたいルール ⑤セルフジャッジの判定とコール

### 【ゲームの状態】

ヤマダ・サトウ組とスズキ・タナカ組は、セルフジャッジの判定がゲームの行方を左右するような競った試合となっていました。

**a) 判定とコール:** ヤマダ・サトウ組が40-15とリードして、ヤマダ君のサービスで長いラリーが続いて、ヤマダ君が打ったボールが大きめであったが、スズキ・タナカ組のアウトのコールがなかったため、ヤマダ・サトウ組はゲームを取ったものと思い、サービスチェンジをしようとしていました。しかし、スズキ・タナカ組は、今のヤマダ君の打ったボールは、明らかにアウトなので分かると思ってコールをしなかったと言いました。ヤマダ・サトウ組はアウトを了承しましたが、スズキ・タナカ組の対応は正しいのでしょうか。

**b) コールの訂正:** ヤマダ・サトウ組とスズキ・タナカ組はラリーが続いて、ヤマダ君が打ったボールがラインの微妙なところに落ちて、スズキ君はアウトのコールをしたが、その後にヤマダ・サトウ組から言われて、インのコールに訂正しました。スズキ・タナカ組は、ヤマダ・サトウ組に対してポイントのやり直しを要求しましたが、ヤマダ・サトウ組はポイント(得点)を主張しました。ヤマダ・サトウ組とスズキ・タナカ組のどちらが正しいのでしょうか。

**c) コールの食い違い:** ヤマダ・サトウ組とスズキ・タナカ組はラリーが続いて、ヤマダ君が打ったボールがラインの微妙なところに落ちて、スズキ君はアウトのコールをしましたが、タナカ君はインをコールしました。ヤマダ・サトウ組は、コールの食い違いで、スズキ・タナカ組の失点になると言いましたが、スズキ・タナカ組はポイントのやり直しを要求しました。ヤマダ・サトウ組とスズキ・タナカ組のどちらが正しいのでしょうか。

**d) スコアが分からなくなったとき:** ヤマダ・サトウ組とスズキ・タナカ組は、長いラリーが続いてポイントスコアが分からなくなりました。ヤマダ・サトウ組は40-30を主張して、スズキ・タナカ組は30-30を主張しましたが、ヤマダ・サトウ組も30-30までは同意できました。この場合は、どのような対応をすれば良いのでしょうか。

### 【ルールは】

**a) 判定とコール:** プレーヤーが判定とコールをすることを、セルフジャッジと言い、以下のとおり行う。サーバーは、サーブを打つ前に、レシーバーに聞こえる声で、スコアをアナウンスする。プレーヤー同士は、アナウンスによって、その時点でのスコアを確認する。ネットより自分側のコートについて、判定とコールをする。ボールがラインにタッチしたとき、又はボールを見失って判定できなかったときは、「グッド(イン)」である。ボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたときは、「アウト」又は「フォールト」である。判定とコールは、相手に分かるように、はっきりとした大きな声と、ハンドシグナルを使って速やかに行う。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出して「アウト」又は「フォールト」を示し、手のひらを地面に向けて「グッド(イン)」を示す。

**b) コールの訂正:** 「アウト」又は「フォールト」とコールした直後に、プレーヤー自身が「グッド(イン)」と訂正した場合は、そのプレーヤーの失点となる。

ただし、サーブされたボールがネットに触れた後のフォールトを、プレーヤー自身(レシーバー)が訂正した場合は、そのサービスをやり直す。

**c) コールの食い違い:** ダブルスの判定とコールは、1人のプレーヤーが行えば成立する。しかし、ペアーの判定が食い違った場合は、そのペアーの失点となる。

ただし、ネット、ストラップ又はバンドに触れたサービスを、1人が「フォールト」でパートナーが「レット(グッド)」とコールしたときは、「サービスのレット」となる。

**d) スコアが分からなくなったとき:** 双方のプレーヤーが合意できるスコアまでさかのぼり、それ以降のプレーで双方が合意できるポイントを足したスコアから再開する。合意できなかったポイントは取り消される。ゲームスコアが分からなくも、同様に処理する。

再開するときのエンドとサーバーは、合意されたスコアに準ずる。ただし、ゲームスコアが訂正されて、再開する場合のサーバーは、次の順のサーバーに交代しなければならない。(同じプレーヤーが2ゲーム連続のサーバーにはなれない。)

## 【正しい処置は】

**a) 判定とコール:** 「判定とコールは、相手に分かるように、はっきりとした大きな声と、ハンドシグナルを使って速やかに行う。」であるので、スズキ・タナカ組の対応は間違いです。ヤマダ・サトウ組が了承したので良かったが、もめる元なのでスズキ・タナカ組は、アウトのコールは速やかに行うべきです。

**b) コールの訂正:** スズキ・タナカ組は、アウトとコールした後に、インと訂正したので失点となり、ヤマダ・サトウ組の対応が正しい。

**c) コールの食い違い:** スズキ・タナカ組は、ペアーの判定が食い違っているので失点となり、ヤマダ・サトウ組の対応が正しい。

**d) スコアが分からなくなったとき:** ヤマダ・サトウ組とスズキ・タナカ組の双方が合意できるスコア(30-30)から再開します。